

J. Sights Corporation

シトラス系果実・果汁の国際貿易市況

2023 年 9 月 28 日

J サイト株式会社 担当:島尾

[お問い合わせ](#)

USDA Foreign Agricultural Service (USDA 海外農務局)が 2023 年 7 月に発表したシトラス系果実の国際貿易市況レポート、また 9 月にイスラエルから来日した当社取引先からの現地情報を交え、23 年 Crop の収穫状況を以下にまとめる。

(1 月期の同レポートを踏まえた当社レポートは別頁にて掲載 → <https://www.jsights.com/pdf/230310.pdf>)

1. グレープフルーツ

1 月期の予測と変わらず、2022-23 年産の世界全体での生産量は、中国、メキシコ、トルコ、米国での悪天候により昨対 2%減の 680 万トンの見込み。

当社が取り扱うトルコ産を含む地中海エリアの収穫は、熱波の影響で昨対 15%近く減少する国もあるが、イスラエルに関しては堅調で昨年同様か微増が見込める。

業界全体として、需要に対して供給が追いつかない材料がそろっている。テキサスやメキシコの農園はここ数年のハリケーンによるダメージから早期回復を図りたいが、資金繰りの都合上、回復するにはまだ時間のかかる見通し。需給のバランスは 23 年産のみならず今後数年にわたって需要が上回り、競争が増すと考えられる。

2. マンダリン、タンジェリン

1 月の予測、120 万トン減からは上向き、90 万トン減の、3,690 万トンとなる見込み。中国、モロッコでの天候不良による減産が響き、消費量も下がると予測。特にモロッコでは、輸出が 30%ほど減少すると予想されている。一方中国は 2%減程度でとどまるものの、国内消費は減少傾向。代わりにインドネシアやベトナムへの輸出が堅調。当初は不調と見込まれていたトルコは、寒冷が開花にさほど影響を及ぼさず、結果、微増の 190 万トンと推定されている。南アフリカは開花が好調であったことと、主要生産地域での良好な降雨がそのまま収穫高に寄与し、4.1 万トン増。過去 12 年間で最も好調な 68 万トンになる見込み。1 月期の予測 56 万トンより 10 万トンも高い結果となる。

3. オレンジ

1 月期の予測から大幅に外れず、全体では 5%減の 4,780 万トンで落ち着くとの見込み。米国の減産は年々深刻さを増し、今季は 4 分の 1 以上の減少で、56 年ぶりの低水準となる 230 万トンになると推定されている。さらに数的に大きな影響があるのはブラジルで、17.9 万トン減の 1,680 万トン。主な要因は不作年により 1 樹木当たりの着果量が減少するため。一方、好調なのは当初の見込み通りエジプトで、60 万トン増の計 360 万トン、加えて南アフリカでも微増の 160 万トン、さらにチリでは 1 万トン増で 17.4 万トン。チリでの増産分は、同国の輸出シェアの 90%を占めている米国へ流れていると考えられる。

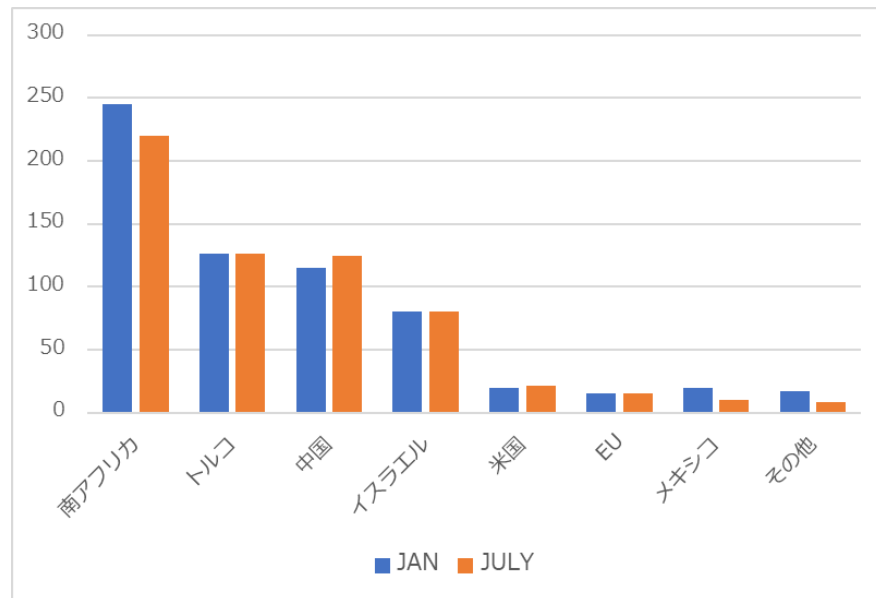
J. Sights Corporation

4. オレンジ果汁

2022-23 年の世界のオレンジジュース生産量は、9%減の 150 万トン（糖度 65 度）と推定される。オレンジ果実同様、ブラジル、EU、メキシコ、米国では加工用の果実も減ったため、生産量も減少している。

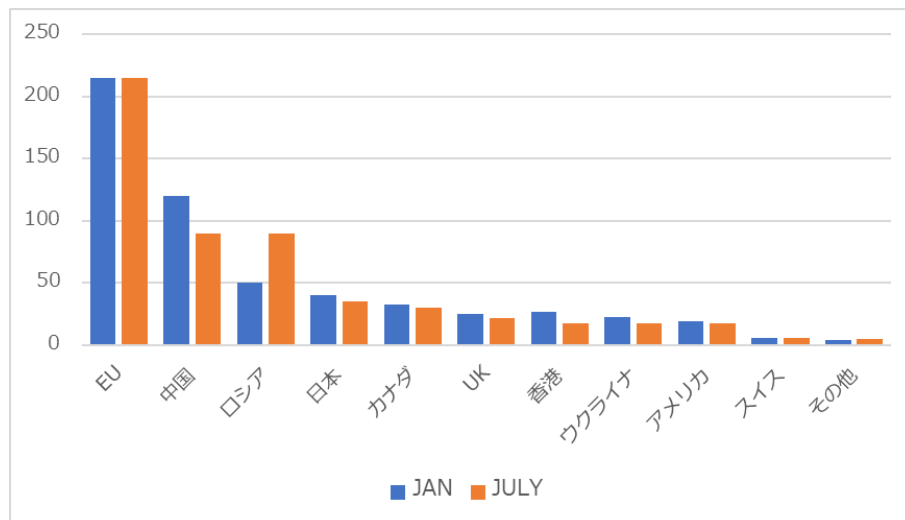
5. グレープフルーツ果実の各国の輸出・輸入量データ（1 月期と 7 月期の予測値比較）

輸出量
(1,000 mt)



輸入量
(1,000 mt)

注目すべきは
中国の 25%減と
ロシアの 80%増



6. まとめ

近年では、地球温暖化の影響で収穫に適した地域がアメリカ大陸エリア、ヨーロッパアフリカ大陸エリア共に多少南下傾向にあると見て取れる。また、圧倒的なオレンジ不足の影響を受け、シトラス果実全体でも需要が供給を上回る傾向にある。安定的な資源確保に向けて、新興地域の農園にも目を向けることや、現存地域との関係強化を図り、優位に需要量を確保できるよう努めていく必要があると考える。